Michi-Style

未知スタイル

Vol.22

2011/5

特集レポート

大震災と「道の駅」

未 知 倶 楽 部

巻頭のことば　「復興への道」

震災の影響で未だに落ち着かない生活を強いられている方々が
多くおられます。
心よりお見舞い申し上げます。
また被災地から遠い我々も時折余震を感じ、福島原発の影響は
どうなるのかと何かと不安定な世界におります。

でも良く考えますとそもそもこの世界とか人間ドラマには
安定的であるシーンの方が少ないのであって、
我々は今この不安定さを如実に突きつけられておりますが、
それに対してどのように対応するのか
実は経験的に何か鍵の様なものを持っているのかもしれません。
そこに期待したいです。

さて、今回未知倶楽部として震災地の近くの道の駅を取材しました。
その中でたくましく生きる人たちの姿を感じ取って頂ければありがたいです。

未知倶楽部　賦勺（ふすく）　尚樹（なおき）

目次

巻頭のことば	p02	復興への道
特集レポート	p03	大震災と道の駅
特集アンケート	p23	震災の影響
北海道の未知倶楽部ドライブ	p28	真狩フラワーセンター
九州道の駅探検記	p30	清和文楽邑
お知らせ	p31	新規掲載の道の駅、等

特集レポート

大震災と道の駅

東北地方太平洋沖地震に道の駅はどう対応したか

いわいずみ（岩手県下閉伊郡岩泉町）●

●たろう（岩手県宮古市）

林林館（宮城県登米市）●

●上品の郷（宮城県石巻市）

那須高原友愛の森（栃木県那須郡）●

●いたこ（茨城県潮来市）

日本列島はいつどこで地震や津波が発生してもおかしくありません。被災地の復興と並行して次の災害への備えを行うことも大切です。大震災から1カ月が経過した4月11日に未知倶楽部に登録頂いている道の駅にアンケートを実施し、震災に関する質問を募集しました。それに基づいて太平洋岸に近い道の駅への取材を行いました。

困難な状況の中、他の道の駅への参考になればと取材にご協力頂きました道の駅の皆様に厚く御礼申し上げます。営業再開のめどが立っていない道の駅もあります。被災された皆様の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

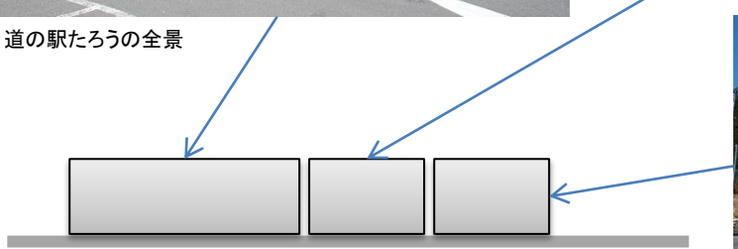
たろう

岩手県宮古市田老
運営：株式会社田老町産業開発公社

道の駅防災拠点化のモデルケース

道の駅たろうの全景

たろう津波防災・道路情報館　床面積230平米。



たろう防災除雪機材庫

門屋駅長にお話を聞いた。

【立地】

宮古市田老は岩手県の三陸海岸に面した漁村である。岩手県の海岸線は全体でみると弓なりになっており、その中央のもっとも膨らんだあたりが宮古市である。緯度では盛岡とほぼ同じだ。

田老地域は明治三陸地震（明治29年）、昭和三陸地震（昭和8年）で津波の被害に遭った。

昭和三陸地震では、人口の4割に当たる763人が亡くなり、家屋も98％に当たる358戸が全壊した。それを受けて、1982年までに海抜10m、総延長2433mの防波堤が築かれ、1960年のチリ地震津波では被害を防いだ。

「道の駅たろう」は集落から約4km離れた標高140mの高台にあり、津波浸水地区から外れている。隣接地には三陸国道事務所が3.5億円で整備し2008年7月に完成した「たろう津波防災・道路情報館」がある。

同情報館には80インチと42インチの2台のモニターや情報検索端末があり、通常時は道路情報などを提供し、地震や津波が発生した際には被災者へ情報や電気を供給し、初期非難やボランティアの復旧作業拠点としての役割を担う。3日分の燃料を確保した発電機があり、トイレの洗浄水は沢水を利用できる。

【被害】

海岸にある旧田老町の集落は壊滅的な被害となったが、高台の当道の駅ではけが人はなく、建物にも損壊はない。当日は駅長を含む5名が勤務中だった。すぐに停電し、電話が通じなくなった。光ケーブルの通信回線が不通になりインターネットも使えなくなった。商品はワインが1本割れただけですんだ。水が流れなくなり、トイレは使用不可となった。

門屋駅長は「自分が被災者という意識はなかった」という。

たろう津波防災・道路情報館の内部

大型モニター設置。壁には避難者リストが貼られていた。

地下に軽油1,900Lの貯蔵タンク。
３日分の想定。

中には発電設備。
トイレの汚水処理装置も備えている。

トイレは上水道と井水の二系統を装備

【避難】

津波ハザードマップによると「たろう津波防災・道路情報館」は一時避難所に指定されている。門屋駅長は道の駅を閉め、同情報館に移って避難者の世話をした。

本来はグリーンピアや学校など滞在を想定した避難所に移るまでの一時的な利用を想定されていたが、結果的には4日間人々は去ろうとしなかった。

その理由は、グリーンピアなどの避難所には発電機がなく情報が入らないが、ここではテレビ放送を見る事ができたからだ。家族の安否がわからない人達などが情報館に集まり、避難所に行こうとしなかった。

電源を少しでも長持ちさせるため、夜間も暖房を消すなど燃料を節約し、結果4日間もたせた。

一時避難所の想定だったため、市役所の支援物資の配布対象には入っておらず、おにぎりや毛布は配布されなかった。要請しても“物資のある避難所に移動するように”と言われた。

それでも家族の安否がわからない人達は自分の食事よりも家族の情報を求めてとどまっていた。道の駅周辺の住民が気の毒がって米などを提供してくれた。道の駅でも冷凍おにぎりをすぐに解凍して配った。

電話が使えなかったので、当初は家族がどの避難所にいるのかがわからなかった。各避難所で避難者名簿を作りそれを手渡して確認し合った。

【営業状況】

地震のあとすぐにお客様に出てもらい、店を閉めた。店や自動販売機を破壊されることが怖かったので、「すぐに営業を再開するつもりなので、盗んだり壊したりしないで」という貼り紙をして回った。

門屋駅長の家族は無事が確認できたが、他のスタッフは家族の安否がわからない状況のため全員家に帰した。道の駅の機能は維持できなくなった。

携帯電話も固定電話も使えないので、連絡方法は人と人の伝言しかない。来る人に聞いて在宅のスタッフの安否を確認し、出社してもらうよう伝言を託した。全員無事であることがわかった。必要な人数が揃う目途がたち、10日後の3月21日に短縮時間で営業再開した。

門屋駅長は「平常通りに営業できることが如何に大切か」を学んだ

しかし、地元の海産物加工品などのメーカーは壊滅しており、業者からの商品供給も滞っていたため、ほとんど商品が無い状態だった。

3月29日に未知倶楽部でかねてから産品交流している「道の駅土岐美濃焼街道」の丹羽駅長が産品を自らバンに積んで運んで来てくださった。おかげで棚に商品がならんだ。

金融機関からは小銭の入金を拒まれた。一方で銀行引き落としとなっている費用は引き去られる。被災している業者への支払は止めたくなかったので、自分たちも苦しかったが支払った。そのため、スタッフの給料を千円札や小銭で払ったりしなければならない部分もあった。

電話回線はまだ回復しないため、NTTドコモの携帯電話の電波を使ったFOMAのデータ通信装置を入手してインターネットにつなぎ、ホームページと電子メールが使えるようにした。

【自治体への協力】

「たろう津波防災・道路情報館」は国道事務所（国土交通省）が整備し、自治体が運用する想定だったが、道路も寸断され、自治体職員がこちらまで来られない状況のもと、使命感から道の駅スタッフと周辺住民で維持せざるをえない状態だった。避難者から見れば情報館も道の駅も同じに写るということもある。そういった事態も想定しておくべきだったかもしれない。

市からは避難所に対する食材の提供を求められた。口頭でも契約は成立することから、代金は市に対する売掛金で処理している。第三セクターとはいうものの企業で負担するには大きすぎる。

【今後への教訓】

普段は、営業効率を優先せざるを得ず、閑散期だったこともあり、商品在庫が少なかった。そのため避難者への食材提供が困難な状況だった。道の駅を防災の核とするのであれば、関係機関の理解を得ながら「一定量の食料備蓄」が必要なのではないかと門屋駅長は振り返る。

門屋 悟 駅長 兼 事務局長
ご自宅は全損、ご家族はけがをされながらも道の駅と隣接の防災施設にとどまり、被災者を保護し続けた。
「ずっとここにいたから自分も被災者だということに気付かなかった」という。
「お客さんに元気を出してもらうよう、明るいBGMをかけてカラ元気でがんばってます！」

産品交流コーナー

顔見知りの丹羽駅長が訪ねてきてくれたことが何よりうれしかった。立場上スタッフには話せないような心の内を打ち明けることができて精神的に助かった。

道の駅を支えてくれている地域の業者の商品が復活し次第、共に復興していきたい。

【全国の道の駅の皆様へ】

「全国の「道の駅」の皆様から本当に、たくさんの支援（物資や義援金など）を頂戴いたしましたし、炊き出しなどの申し入れもありました。本当に何とお礼を申し上げて良いのか…ただただ感謝するのみでございます。

目下は、スタッフも生活を再建しつつの勤務であり、できるだけ通常通りに運営することを一生懸命にやっているところです。

私が願っているのは…「ごく普通でありたい」ということです。当駅は小さな「道の駅」で、最近の「道の駅」の大型施設、多機能施設に比べれば見劣りすると思います。」

「何か、みんなの役に立つことを…と考えた結果が『ごく普通である』ことに辿り着きました。店内ではBGMが流れ…『いらっしゃいませぇッ！』と挨拶し、清掃をし、事務処理をし、支払も通常通り。こんな極々当たり前のことをすることが良いのではないか…と。

各地の道の駅から復興支援のイベントや炊き出しのご提案も頂いておりますがが、今は当道の駅にそれだけの余裕がなくお応えできず申し訳なく思っております。」

「全国の皆さんに助けていただけるのであれば、イベントの自粛などはしないで、どんどん日本の景気が良くなるように、多くの人にお店で食べてお金を落として頂くのが経済全体のために良いと思います。」

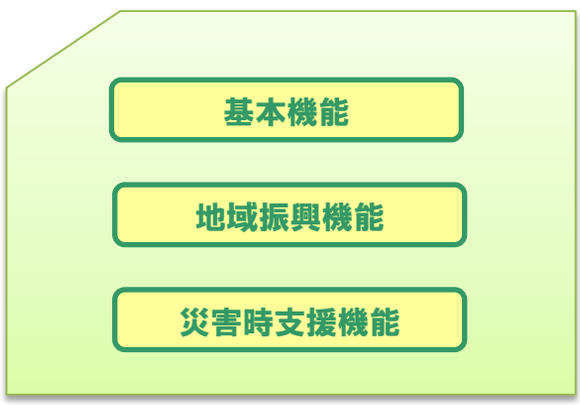
巨大な堤防は津波を防ぐことはできなかったが、到達を遅らせることはできたのではないか。

田老地区の集落は壊滅した。

「大震災と道の駅」のまとめ

今回、茨城、福島、宮城、岩手の道の駅での取材をふまえ、震災などの災害における道の駅の役割と、そのための備えについて考察する。

災害における道の駅の役割には3つのレベル（階層）がある。第一に＜基本機能＞のレベル。駐車場、トイレ、道路情報という道の駅の最も基本的な機能である。第二に＜地域振興機能＞のレベル。特産品販売所、農産物直売所、飲食店などの役割だ。第三に＜災害時支援機能＞のレベル。避難者の保護や非常用設備など、非常時にのみ必要となる機能である。



■基本機能■

駐車場、トイレ、道路情報という道路施設としての道の駅の基本機能は災害時においても最も必要とされる。「道の駅いたこ」で見たようにアクセス道路や駐車場が破壊されると車が入ってこられず最も基本的な機能を果たせなくなってしまう。「道の駅上品の郷」や「道の駅林林館」のようにトイレの洗浄水が止まると手作業での汚物処理が必要となりスタッフに大きな負担を強いることとなる。今回見た道の駅の道路情報施設・装置はいずれも停電によって使えなくなっており、被害状況や避難経路など情報の重要性が高い状況で機能を果たせていなかった。

そうした中で、「道の駅たろう」に隣接して設置されていた「津波防災・道路情報館」は、発電機によって4日間テレビを使う事ができ、情報提供の役割を果たした。また、同情報館のトイレは水道と沢水の二系統を利用しており、道の駅のトイレが使用不能となったあとも使い続けることができた。これを参考に以下の備えが必要であると考える。

- 駐車場の耐震強度確保（特に軟弱地盤の地域）
- トイレ洗浄水への井水や沢水の利用（ポンプ式の場合は予備電源も必要）
- 非常用浄化槽の設置（地震で下水管が破損する場合もある）
- 防災トイレの設置（マンホールタイプなどが道の駅に予め備えられていることが望ましい。仮設トイレは自治体が押さえて避難所など他所へ回されてしまう場合があるため。）
- 情報棟への自家発電機設置（最小限の情報機器用電源の確保）

■地域振興機能■

特産品販売所、農産物直売所、飲食店、さらには温浴施設などの地域振興施設は、災害時には食料や飲料を提供するライフラインとしての役割を果たしていた。地域振興施設はたとえ第三セクターであっても独立採算で運営している場合が多く、無償提供よりもまずは通常営業を考えるべきである、というのが今回取材しての共通認識であった。

非常時にも“通常通り”販売を継続することは列記とした社会貢献となる。

（非常時に通常通りがいかに難しいことか！）

震災後の動き

まずは地震や津波への対応をする。
（津波の場合は店舗を離れすみやかに避難。販売を続けて犠牲になった方々もいる。）

↓

落ち着いたら、販売を再開してできるだけ在庫を減らす（在庫を減らすことは防犯にもつながる）

↓

冷凍・冷蔵在庫の処分、生鮮・常温商品の補充

日頃からの準備

- 燃料不足で業者の物流が弱まるが、そういう場合でも配貨してもらえる関係を日頃から地元の業者と築いておくことが必要。
- 業者の物流が停止した場合、販売を継続するためには商品を集めに行く必要性が生じる。そのための燃料備蓄と車両の確保が必要
- 飲食店は地産地消型で地元の農家からの食材で運営していれば、緊急時にも食材確保できる。
- 電話が不通となり、メールも使えなくなるので、スタッフとの連絡方法は“人が伝える”というもっとも原始的な手段しかなくなることも想定しておくべきだ。特に当日出社していないスタッフとの連絡方法・再会方法をあらかじめ決めておくとよいのではないだろうか。

■災害時支援機能■

今回の取材では道の駅自体が避難所になっているケースはなかった。収容人数の多い学校や文化センターなどが指定されている。道の駅に求められる災害時の支援機能としては以下の4つがみられた。

①一時的な避難者の保護

被災地に近い道の駅の場合には、津波や地震の被害から避難してきた人々が一時的に身を寄せる場所として利用される可能性がある。

➢ テレビとインターネット

その場合に最も必要とされるのは何よりも情報である。不意に避難してきた人々は災害の規模や全体の状況などを把握していない。

国土交通省の情報棟に非常用電源を備え、停電してもテレビとインターネットが使えるようにすることだ。インターネットの通信回線はケーブルと携帯など複数系統を用意するべきだろう。

➢ 電話

誰もが家族や職場と連絡を取ろうとするので、電話が必要とされる。固定電話の利用、携帯電話の充電に対するニーズがある。電話会社の非常用電話は避難所や役場に設置される。道の駅での必要性も訴えていく必要があるだろう。

➢ 食事

一時的な避難が長期化する場合には飲食部門は道の駅内に滞在する利用者におにぎりなどの食事を提供しているケースが多い。

非常時の食事提供には飲料水の備蓄、プロパンガス、自家発電機が役立つ。

②避難経路の案内・避難先情報の提供

公民館や学校など滞在型の避難所になっている場所とそこまでの経路についての情報が求められる。大判のハザードマップを用意することに加えて、非常時に県・市町村から必要な情報を取得する方法を検討しておく必要がある。

③避難所への物資提供

市町村から避難所に対する食品や飲料の提供を求められるケースが多い。課題は2つある。

ア）非常用備蓄

一つは通常の営業に必要な分以上の食材や商品の在庫を持っておくかどうかという量の問題である。食事になるような商品をもう少し在庫しておけばよかったという声と同時に、道の駅の運営企業が人道支援のための備蓄を単独に行うことは財務的に難しく行政の補助が必要だろう、というのが取材先の大勢であった。

イ）代金支払

もう一つは提供した物資の代金を行政から補てんしてもらえるのかどうかという支払いの問題である。通常行政機関は予算化していない支出はできないので、緊急時に提供した物資の代金を後から払ってもらうことは難しい。事前に協定※があれば道の駅側も安心して提供することができる。委託販売の場合には取引先も含めて事前に取り決めをしておく必要がある。

※『災害時における物資の調達に関する協定』
多くの自治体がスーパーなどの民間企業と締結している。例えば三重県四日市市の場合は、自治体の災害対策本部の要請（文書、緊急の場合は口頭も可）に基づき物資を提供する、物資の対価（災害直前の価格）と運送費は、店の出荷確認書などに基づき自治体が負担する、などとなっている。企業側には流通在庫以上に備蓄する義務はない。

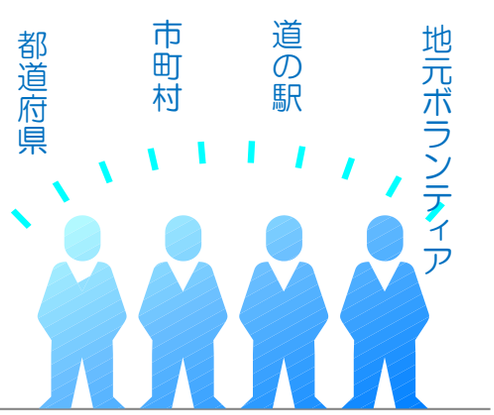
④他所からの避難者や旅行者への地域情報提供

福島県から栃木県に避難してきた人々に対する総合相談所が設けられた「道の駅那須高原友愛の森」のケースのように、被災地から離れた道の駅では避難者の中継拠点になる可能性がある。

また、旅行中に被災して当地にとどまらざるを得なくなった旅行者もいる。

避難者は、宿泊施設やレストラン、当面の生活に必要な衣類や薬を調達する場所などの地域情報を必要としている。「道の駅那須高原友愛の森」でボランティアの方々が行っていたように、日頃培った地元の人脈を生かして、避難者それぞれ個々のニーズに合わせたきめ細かい地域情報を提供することが喜ばれる。それには地元の生活情報に詳しい人材の協力が得られるように備える必要がある。特に日頃物販しか行っていない道の駅の場合には、緊急時を想定して地域情報を整理してマップを作成するなどの備えが必要ではないだろうか。

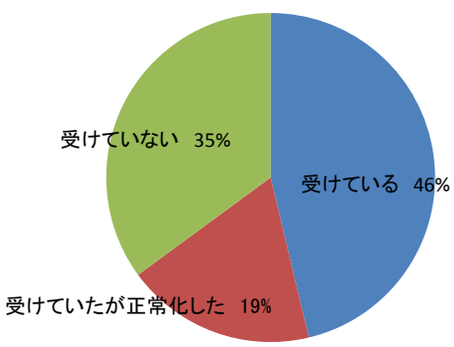
県、市町村、道の駅、地域ボランティアがそれぞれに得意なことが違うので、力を合わせて補い合うことが必要である。特に緊急時にはそれぞれが自分の持ち場で手一杯になるので、必要な情報は自分から取りに行く姿勢でなければならない。平時に関係者がコミュニケーションを取っていれば緊急時の対応もよりスムーズになるだろう。



アンケート ◆ 震災の影響

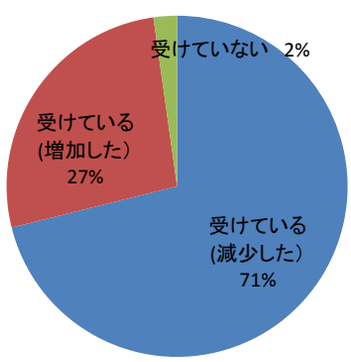
東北地方太平洋沖地震から1カ月が経過し、全国の道の駅に対するその影響を聞いた。
未知倶楽部に登録している359駅に4月11日～15日の間でアンケートを実施し、135駅から回答を得た。
回収率37.6%。

1 震災発生以降、商品や資材の調達の面で影響を受けていますか



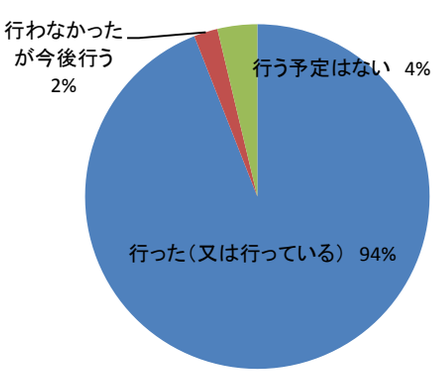
6割以上の道の駅が影響を受けた

2 震災発生以降、来場者数の面で影響を受けていますか



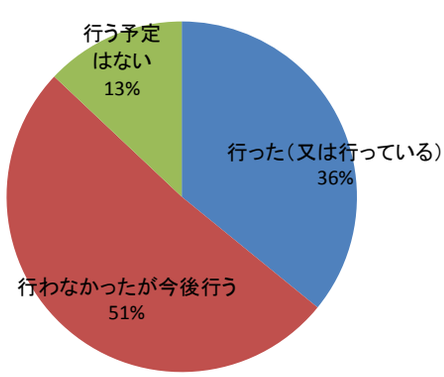
7割の道の駅で来場者数が減少

3 震災発生以降これまでに被災地支援に関する取り組みをされましたか

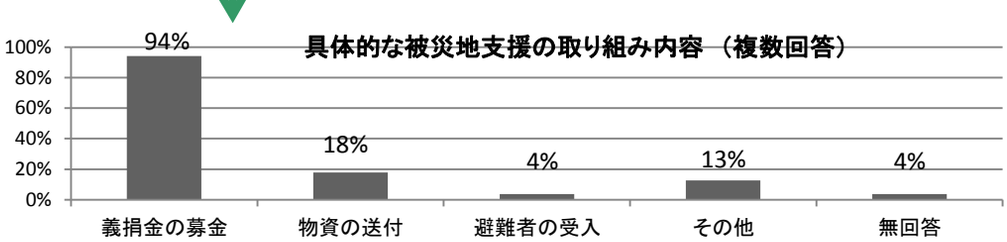


ほとんどの道の駅が支援

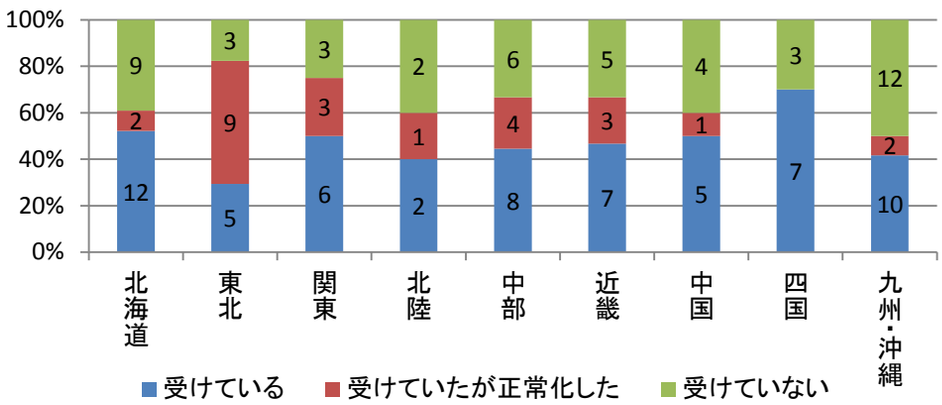
4 震災をうけて災害対策の再確認や見直しを行いましたか



3分の1が再確認

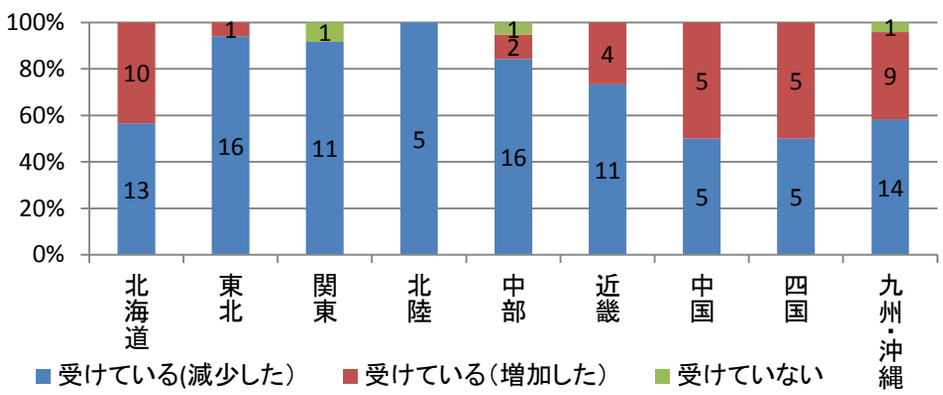


1 震災発生以降、商品や資材の調達の面で影響を受けていますか



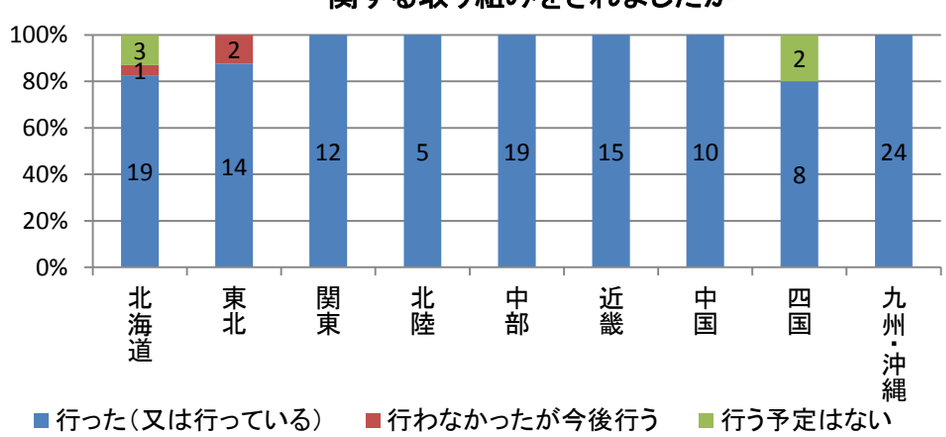
東北を筆頭に、関東以西でも広く影響を受けている。

2 震災発生以降、来場者数の面で影響を受けていますか



東日本～中部・北陸で来場者が減少。北海道と西日本では増加していると答えた道の駅も半数近い。

3 震災発生以降これまでに被災地支援に関する取り組みをされましたか



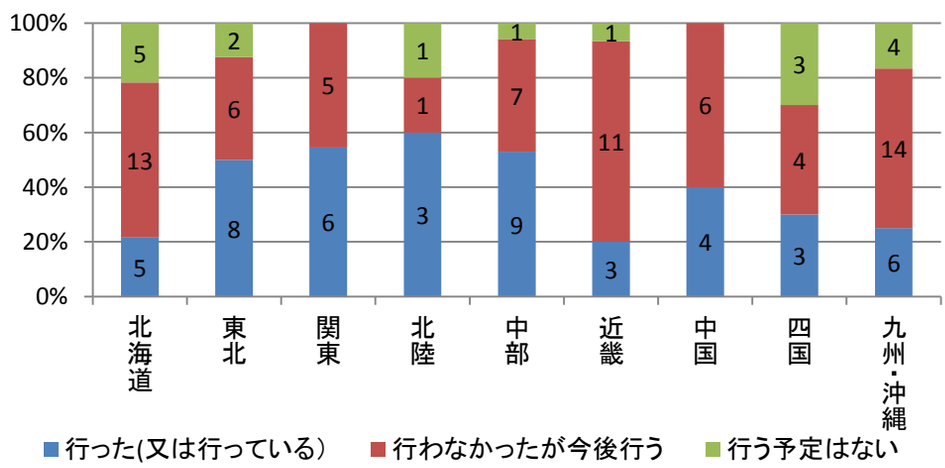
全ての地域で積極的に取組みが行われている。

（承前） 具体的な被災地支援の内容 （複数回答）

地方	義捐金の募金	物資の送付	避難者の受入	その他
北海道	20	1	1	3
東北	16	7	1	4
関東	12	1	1	1
北陸	4	1	1	1
中部	19	5	1	2
近畿	15	1		2
中国	10	1		1
四国	8	2		
九州・沖縄	23	5		3
総計	127	24	5	17

その他の主なものは、東北産品の販売支援チャリティーコンサートなど。

4 震災をうけて災害対策の再確認や見直しを行いましたか



東日本～中部・北陸で災害対策の再確認や見直しを迅速に行ったところが多い。

アンケートの自由記入欄に記載いただいた
被災地の道の駅の方への応援メッセージをご紹介します。
（順不同）

全国の道の駅からの応援メッセージ

- 応援依頼があれば、どんな事が協力できるのか、取組みます。（キララ多伎）
- 風評被害の農産物や魚類も道の駅のネットワークの全国規模を生かして、使ったり売る行動を興しましょう！何故、声が上がらないか？だ。（うたしないチロルの湯）
- この度の災害に心よりお見舞い申し上げます。がんばって下さい。（頓原）
- 度重なる余震続きで、まだまだ復興には相当な時間がかかると思います。私達のできることは本当に微量だと思いますが、少しでもお手伝いできることがあればと考えています。全国の道の駅の仲間がついています。必要なものがあればメッセージを送って下さい。（かまえ）
- 早期復興に頑張って下さい。応援します！！（そばの郷らっせいみさと）

全国の道の駅からの応援メッセージ

- 被災された皆様にお悔やみとお見舞い申し上げます。（びえい「丘のくら」）
- 何が一番できたらいいのか。ただ見ていることしかできない私達です。希望が何かわかればFAXで流してください。今私達にできる事は元気である事だけかもしれませんが。（熊野古道中辺路）
- 心よりお見舞い申し上げます。がんばろう　日本（甲斐大和）
- 皆様が日常に一日でも早く戻れる事を祈っております（富士見）
- 一刻も早い復興をお祈りしています。飯山市から応援しています。がんばりましょう。となりの信越さかえさんもがんばっています！（花の駅千曲川）
- この度の東北地方太平洋沖地震により被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。そして一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。（いいで）
- 道の駅の交流で付き合いのある方々が被災されて大変な状況を直にお伺いすることで、現地の酷さを痛感しております。微力ながら長く支援していきます。（加子母）
- 震災発生から1か月が経過しましたが、これからも大変だと思います。阪神淡路大震災の時のように被災地ができるだけ早く復興し、被災者の皆様の生活に無事平穏が訪れる事を心からお祈り申し上げます。（但馬のまほろば）
- 未知倶楽部の会員で（東北）の道の駅の販売代行等の協力しますので早い復興・経済力の強化に向けて長期間応援します。（土岐美濃焼街道どんぶり会館）
- 海に面している道の駅ということで普段から津波には注意を払っていますが、今回の大震災をみて、認識を改めざるをえません。僕達も微力ながら復興のお手伝いが出来ればと考えています。（あかばねロコステーション）
- 当店は、淡路島にある道の駅です。16年前の阪神淡路大震災ではボランティア活動で炊き出しや物資の仕分けなど参加させていただきました。被災者の方は本当に大変だと思いますが、きっと明日はあります。あきらめずに粘り強く東北魂をもって復興をなしとげてください。遠い所からですが、お祈りいたします。（うずしお）
- 皆さん、これからが勝負です。前を向いて歩きましょう！！（にしあいづ）
- 一日も早い復興を願っています。（清流茶屋かわはら）
- 被災地の方々を従業員一同応援します。応援するだけでは、進展しないので何でも要望があれば対応しますので、わがままな要望でもお聞かせ願いたいです。（田原めっくんはうす）
- 同じ道の駅なので頑張ってほしい。（日向）
- 一日でも早い復旧・復興がされることお祈り申し上げます。（ライスランドふかがわ）
- 不足している商品又は、資材等ありましたら、ご連絡下さい。いっしょにがんばりましょう。（協和）
- 一日も早い復興をお祈り致しております。頑張れ東北魂！（たいらだて）
- 頑張って下さい。（黒之瀬戸だんだん市場）
- 被災地の道の駅では販売する商品が少なくて困っていると聞いておりますが、（中略）その解決策として何か協力できることがあればと考えております。（みずなし本陣ふかえ）
- 地域活性化のためにも、ぜひ復活して下さい。応援し続けます。（ローズマリー公園）
- 毎日テレビを見て、もらい泣きしてます。東電、国の補償を最大限に期待します。（北信州やまのうち）
- 早い復興をお祈り申し上げます。（クロス10十日町）
- 生産者・加工業者の販売支援を行っています。（全国直売サミット、地産地消の仕事人のネットワーク）現在は福島県会津若松の「NPO素材広場」が窓口。販売先の確保が困難な道の駅・直売所が有りましたら、リスト作成して頂ければ販売支援を致します。「共存共栄：痛みも喜びも共有しましょう」（泗水）
- 「中国地区道の駅連絡会」では各駅レジ前に義援金箱を設置することにした（任意ではあるが）。これをまとめて、「東北地区道の駅連絡会」を通じて被災者に送ることにしている。（津和野温泉なごみの里）
- 復興東北　再建日本（十三湖高原）
- 被災にあわれた皆様に心よりお見舞い申しあげます。北海道より一刻も早い復興がなされますようお祈り申し上げます。今春、福島県伊達市と姉妹都市（松前）にあり、産品の支援販売（チャリティー）を行います。（北前船松前）

全国の道の駅からの質問

たくさんのご質問をお寄せ頂きありがとうございました。今号の特集レポートでは頂いたご質問を念頭に取材いたしましたのでご覧ください。質問の一部を以下にご紹介いたします。

質問	編集者回答
◆ 被災された道の駅の情報が知りたい。／当駅と同じように海に面している道の駅さんの被害状況等が知りたいです。	➢ 14ページの林林館の取材で、熊谷駅長から伺った沿岸部の道の駅の状況に触れております。
◆ どういう準備をしておくべきか／備えておいた方がよい設備や対策／用意する物品／他の道の駅での今後の災害対策の事例について、どんなことを行っているかなど。	➢ 20ページからのまとめをご参照ください。道の駅の基本機能をまずは守ることを真剣に検討すべきと考えます。
◆ 道の駅がどんな役割を担ったか行政機関との連携プレーがどのように出来ているのか。／当駅は地域振興局と災害協定を結んでいますが、今回の災害により道の駅の役割としてどのような協力を行ったのか教えてほしい。／被災後の対応や地域間での（東北）対策等についてどのように行ったか。道の駅の役割的な事（県・地域での）／避難場所としての道の駅の役割／避難場所として機能が働いていなければ、近隣への対応をどのようにしていますか？	➢ 被災地に近い地域では行政機関も対策本部で手一杯となり、実態としては連携プレーは困難なようです。むしろ周辺部では落ち着いた中で避難してくる人達への対応などで連携されていました。特集レポートの各事例をご参照ください。
◆ お客様への情報提供、避難誘導をどのように行ったのか、ぜひ知りたいです。（津波警報発令を経験したので）／一般ドライバー受け入れ時の対応。	➢ 道の駅の施設自体は耐震性に優れており、あわてずに笑顔でお客様を落ち着かせる対応が有効とのことでした。
◆ 津波で流された商品の支払いは、どこが保証するのでしょうか？／もし道の駅が避難的な事になっているのであれば、食品提供はお金がなくても渡して対応したのでしょうか？／被災保険加入とその保障状況について。	➢ 委託取引の場合、商品もレジも流されていると販売実数わからず、協議となりそうです。販売と支援は明確に区別して行うべきでしょう。自治体との災害協定があるとよいでしょう。（22ページ）保険については、店舗総合保険があります。
◆ 道の駅単位の支援（道の駅に対して）はされないのか？	➢ 東北の道の駅連絡会で直接使える支援金を検討されています。

未知倶楽部

未知スタイル
発行　伊藤忠商事株式会社　自動車ビジネスクリエーション室内　未知倶楽部事務局
〒107-8077　東京都港区北青山2-5-1
TEL：03-3497-3322 FAX：03-3497-3330
http://www.michi-club.jp